

屋我地大橋



路線名	一般県道110号線
規格	第3種2級
架橋位置	起点側：名護市屋我（奥武島）
	終点側：名護市屋我（屋我地島）

橋種	PC5径間ポストテンション連続箱桁橋
橋格	1等橋
橋長	L=300.0m
設計速度	V=40.0km/h
有効幅員	車道7.5+歩道2.5 (m)
支間割	44.4+3@70.0+44.4 (m)
平面線形	R=∞
架設工法	片持架設工法（カンチレバー工法）
クリアランス	W=40.0m H=5.0m
設計荷重	TL-20
塩害区分	A-(I)
地質概要	国頭層群の千枚岩・緑色岩・砂岩を基盤とし、その上に仲尾次層（微細砂）、最上位に碎屑性石灰岩層が被覆している
事業費	約26億円

建設経緯

屋我地大橋は、羽地内海の屋我地島と奥武島に架かる橋で、平成22年12月にワルミ大橋が完成するまでは、長年にわたり本島と屋我地島を結ぶ唯一の橋であった。現在の橋は3代目で、2代目の旧橋は幅員が狭く、歩道もなく、老朽化も著しかったため、早急な架け替えが切望されていた。本島から屋我地島、古宇利島へと繋がる屋我地大橋は、歩行者の安全確保、交通需要への対応はもとより、屋我地島、古宇利島における観光資源の開発、教育、医療、福祉の向上など島の振興に大きく寄与している。

年月日	事	項
昭和25年度	初代屋我地大橋着工	<div style="background-color: #0070C0; color: white; padding: 10px;"> <h3 style="margin: 0;">マイロード事業</h3> <p style="margin: 5px 0;">沖縄の松島ともいわれる風光明媚な羽地内海の景観と調和した優美な橋梁景観とすべく、橋面（親柱、高欄、バルコニー、橋面舗装、照明等）、及び橋詰め広場に積極的に意匠を施した。</p> <p style="margin: 5px 0;">修景計画策定にあたっては、地元の見解を取り入れるため、地元代表を含む「屋我地大橋修景検討委員会」を設置し、地元の見解を反映した。</p> <p style="margin: 5px 0;">修景コンセプトとしては、橋の構造形態、周辺環境等とのデザイン的な調和を図ることとしており、橋の利用者が周辺の豊かな自然景観も同時に楽しめるよう配慮した。</p> </div>
昭和28年度	初代屋我地大橋完成 L=146m、W=5.5m	
昭和35年度	チリ津波により旧橋流出	
昭和36年度	2代目屋我地大橋着工	
昭和38年度	2代目屋我地大橋完成 L=300m、W=5.5m	
昭和48年度	ファイバーグラスによる補修（塩害対策）	
昭和62年度	新橋予備設計	
昭和63年度	国庫補助事業として採択	
	橋梁実施設計 仮橋着工	
平成元年度	A2橋台、P2、P3、P4橋脚施工完了	
平成2年度	A1橋台、P1橋脚P2、P3柱頭部施工完了 P1部張出しL=56m	
平成3年度	P1、P4柱頭部施工完了 P1、P3、P4張出しL=125.5m A2側径間	
平成4年度	P1張出しL=42.5m A1側径間 P1-P2、P2-P3、P3-P4閉合部 橋面工L=300m 取付け道路L=560m	
平成5年3月27日	旧橋撤去 開通	

屋我地大橋の特色

- 幅員が狭小であった2代目屋我地大橋の架け替えとして、大型車両の交通に支障のない車道幅員を確保し、両側に歩道、バルコニーを設置する等、歩行者への配慮を図り、魅力と活力ある地域振興に寄与する構造となっている。
- 修景のコンセプトとして、橋の構造形態、周辺環境との調和を図ることとし、羽地内海の優美な自然の色彩と対立しないよう全体的に灰色系で、有彩色はブルー系のみとしている。



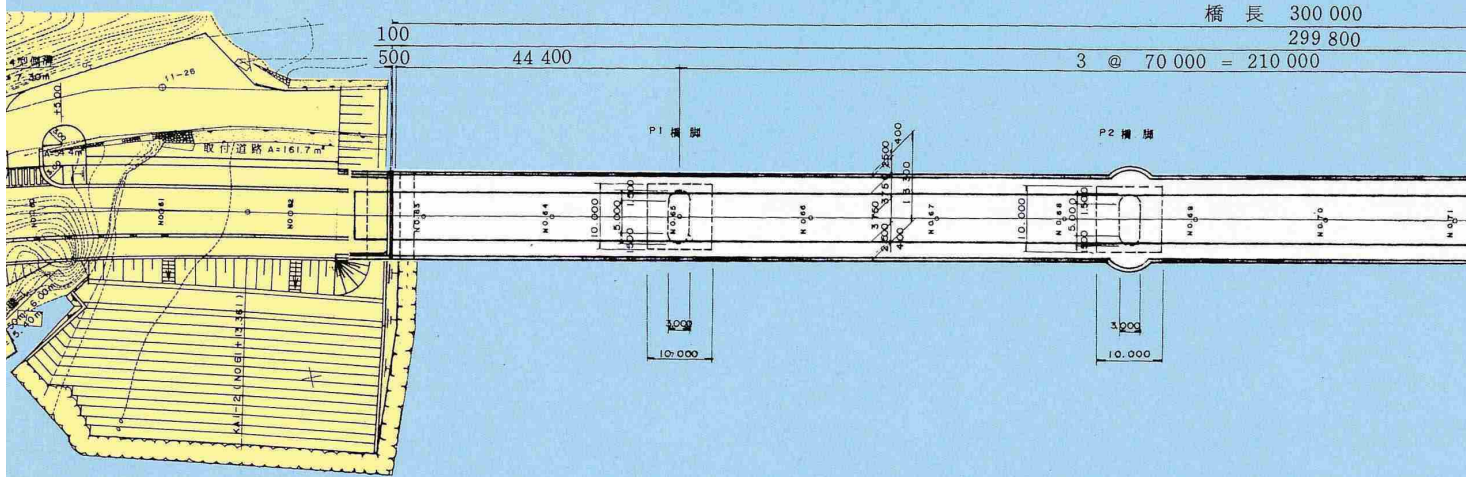
初代屋我地大橋（昭和28年～昭和35年）チリ津波により損壊



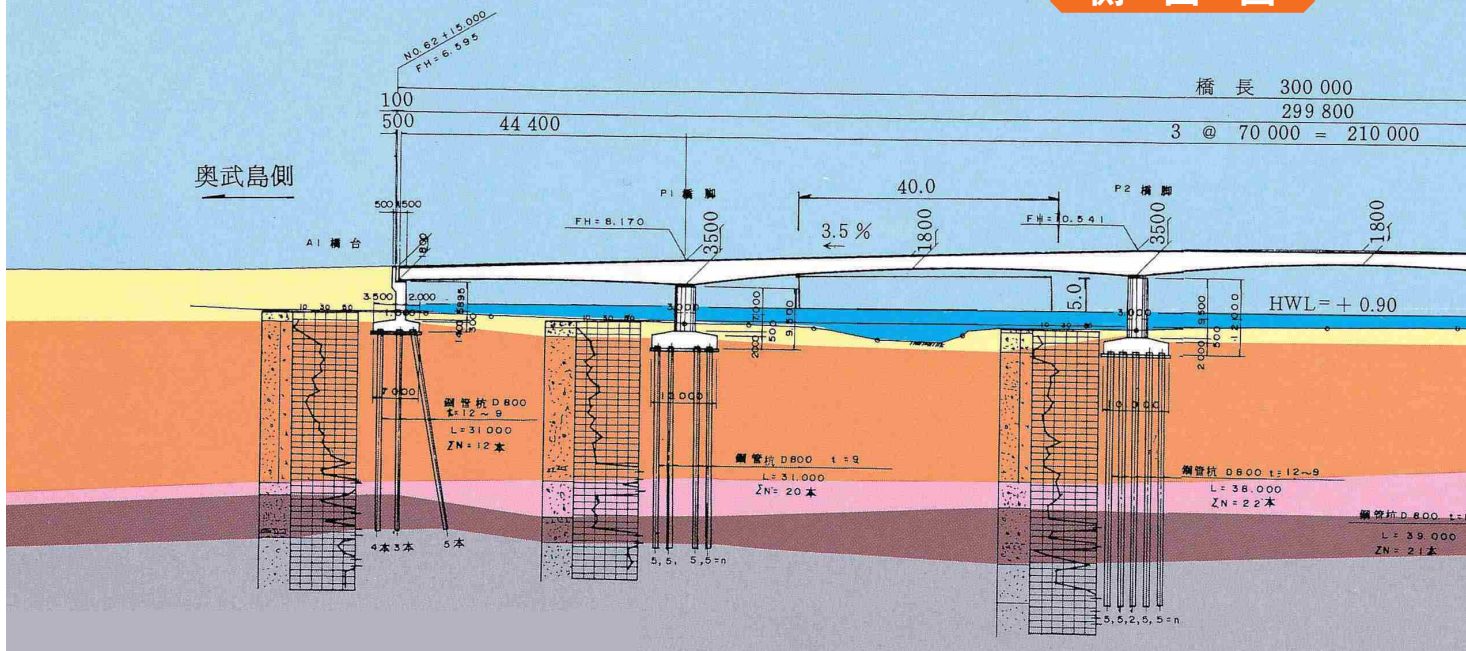
2代目屋我地大橋（昭和38年～平成4年）塩害、老朽化による架け替え

●計画一般図

平面図



側面図



●構造形式

上部工形式	PC5径間連続箱桁形式
下部工形式	A1、A2橋台：逆T式橋台 P1～P4橋脚：小判柱式橋脚
基礎工形式	鋼管杭基礎φ800



屋我地大橋の歴史を記した石碑



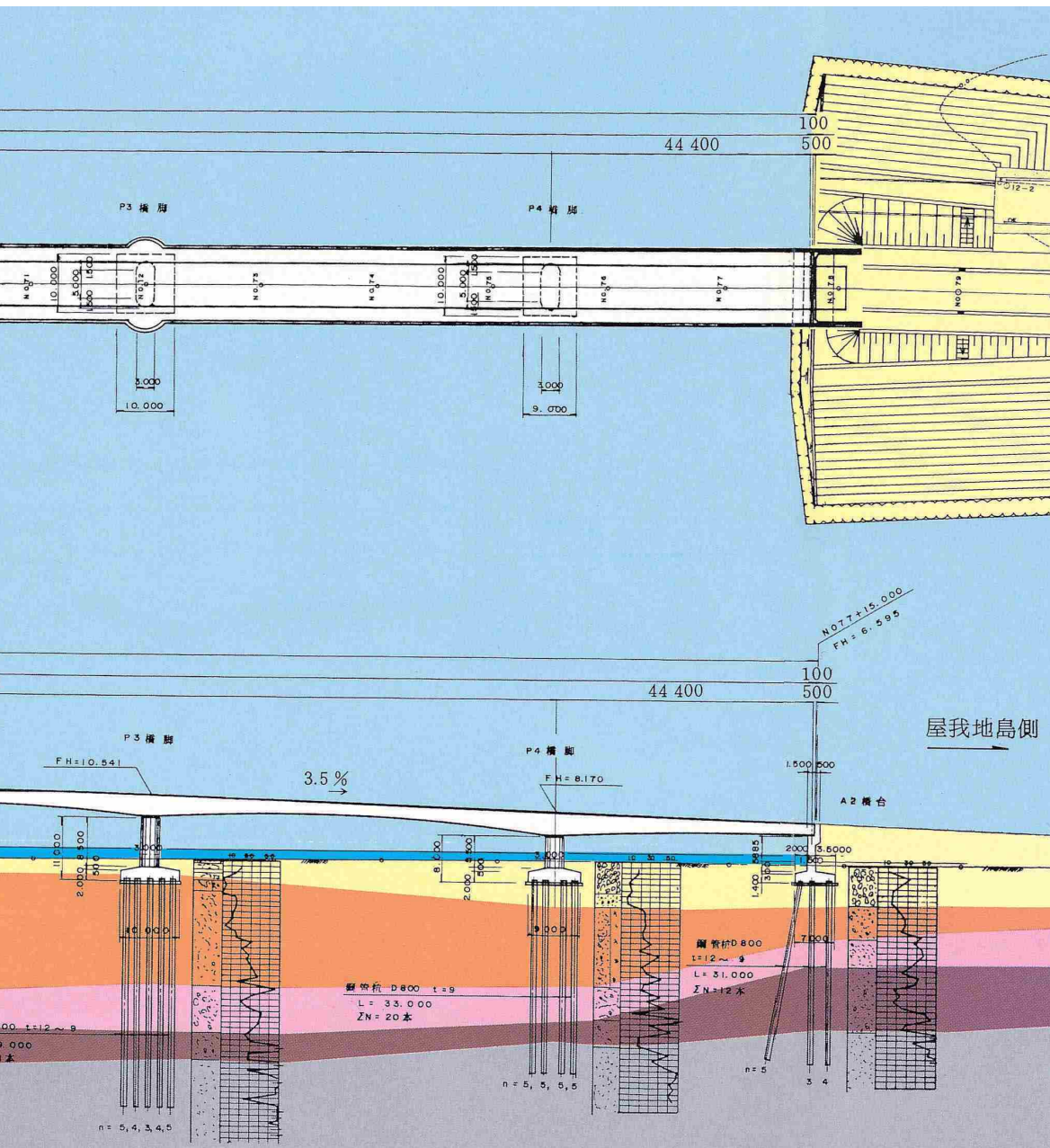
親柱



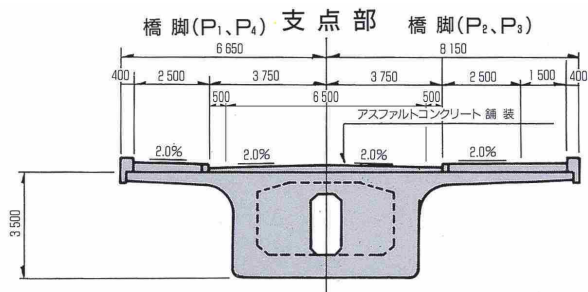
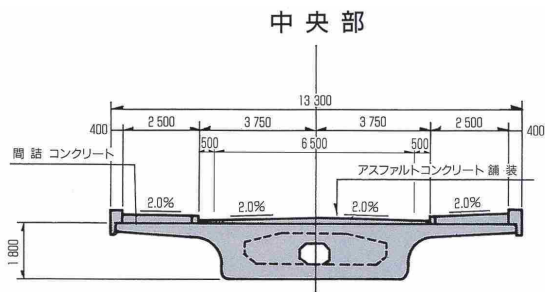
バルコニー



正面（奥武島から屋我地島向け）



断面図



側面